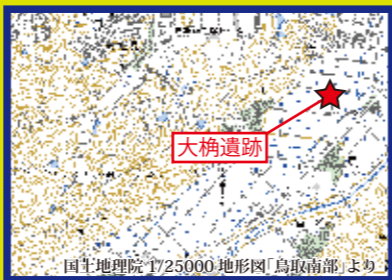


大桷遺跡

だいくいせき



調査はじまりました！！

大桷遺跡では、5月の終わりに遺跡の航空写真を撮影したり（写真①）、現代の田んぼの土を重機で取り除いたりといった、調査の事前準備を行った後、6月から本格的な調査にとりかかりました。

まずは、調査区のまわりに排水のための溝を掘っていたのですが、さっそく約1mほど下の地層から、古墳時代前期（約1,700年前）の土器が見つかりました（写真②）。とてもきれいな状態で残っていたので、今後の調査に期待大！！

これから、地層を観察しながら丁寧に土を掘り下げていきます。どんな発見があるのか、今からとても楽しみです。

次号をお楽しみに（o^）。



↑写真① 調査地遠景
調査地の南東側上空から湖山池を見たところ。現在はのどかな水田風景が広がっていますが、昔はどんな景色が広がっていたのでしょうか。

←写真② 見つかった土器
今の地面から約1m下の地層から見つかりました。古墳時代前期の煮炊きの道具、「甕」のようです。

松原田中遺跡

まつばらたなかいせき

第4面から第5面の調査へ



▲第4面全景（北西から）

第4面で見つかった中世の土坑（西から）



調査が始まって2か月が経過し、2区の調査は、第4面（古墳時代～中世）から第5面（弥生時代～古墳時代）の調査へと進みました。

第4面の調査では、溝や小穴、土坑などが合わせて105基も見つかりました。そのうち、24土坑・25土坑は直径1.8m、深さ0.5mほどで、大きさも形もよく似ていて、土坑の中からは中世（600～700年くらい前）の土器片がまとまって出土しました。また、24土坑には大きな石がたくさん入っていました。中世のごみ捨て穴か、あるいは井戸だったのかもしれませんが。

今は、第4面の調査を終え、第5面の遺構を探して掘り下げを行っているところです。

7月5日（土）の午後1時30分から現地説明会を実施します。（小雨決行）是非、お越しください。

高住宮ノ谷遺跡

たかすみみやのたにいせき



頭かくして尻かくさず！？

重機による掘り下げが終わって、人力で地面を削って表面の土の違いを観察しています。調査区の山側斜面にある壁をキレイにしていたところ、何やら丸いものが出てきました。よく見てみると、「長頸壺（ちょうけいこ）」の胴部であることがわかりました。上の部分が壁に埋まっていたのでわかりにくいですが、ちょうど「頭かくして尻かくさず」といったところでしょうか。

ただ、記録をとるために土器はしばらくこのままです。きっと首をながくして！？掘り出されるのを待っていることでしょう。

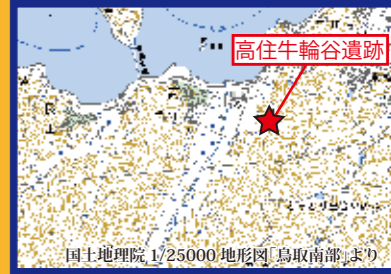


長頸壺とは…
今から約1400年前につくられた壺の形をした土器（須恵器）です。水などの液体を入れていたと考えられます。



高住牛輪谷遺跡

たかすみうしわだにいせき



古墳時代のイヤリング発見！！

今年の発掘調査も例年と同じく、黒い色をした土の中から、須恵器やかまどの破片、先月号で紹介した陶棺の破片など数多くの遺物が続々と姿を現しています。

先日、スコップを使って土を掘っているとき、「コツン」と何かに当たる感触。。注意深く土を取り除いて見てみると、なんだか10円玉みたいに赤い光沢のあるものが顔をのぞかせています。持ち帰って、丁寧に泥を落とししてみると……直径2cmほどの「耳環」（イヤリング）だとわかりました。

陶棺や耳環は、どちらも一般的には古墳の中から発見される遺物です。なぜ田んぼの下から見つかるのか、謎は深まるばかりです（o^）



耳環の出土状況



土を落とすとこんなにキレイになりました（o^）☆



愛称募集中♪

常松大谷遺跡 つねまつおおだにいせき & 常松菅田遺跡 つねまつすがたいせき



田んぼの下には…
たくさんの暗渠が隠れていました!!

田んぼの下には・・・?

常松菅田遺跡では、調査区北東部で近世（江戸時代）の田んぼが見つかりました（写真1）。その下には、田んぼにたまった水を抜くための溝がさまざまな方向に張り巡らされていました。これは「暗渠」と呼ばれる溝です。暗渠には枝を敷き詰めたり、棒状の木と石を組み合わせたものがありました（写真2：①～③）。これらの違いは、効率よく水抜きを行うためにいろいろと工夫を重ねてきた結果なのでしょう。

お百姓さんが行ってきたお米作りに対する努力には頭が下がります。



写真1 田んぼ（近世）の写真



① 枝をたくさん入れた暗渠

写真2 さまざまな種類の暗渠



② 木の上に石をのせた暗渠



③ 石と木を交互に置いた暗渠

下坂本清合遺跡 しもさかもとせいごういせき

あなたが落としたものは?

江戸時代の田んぼの層を掘り下げると、10m四方くらいの範囲に黒い土が広がっていました。どうやらこの範囲は周囲よりも落ち窪んでいたため、黒い土がその窪みの中に溜まったようです。

ためしに掘り下げると、80cmほど下で砂の層に突き当たった途端に水が勢いよく湧き出してくるではありませんか。砂の中からは鎌倉

時代ごろの下駄や漆器のお椀などが出土しました。

この窪みははたして何なのか?もしかして泉?、それとも井戸?底はまだまだ見えず、どれくらい深いのか予想がつきません。

うっかりスコップを落としたら、金と銀のスコップをもった女神様が現れるかも?



窪みを掘り下げているところ
(白い輪の内側です)



漆器のお椀 (ひっくり返っています)

鳥取西道路の遺跡を掘る!

第62号 2014年6月20日

医学や科学の進んでいない古代において、人々がよりどころとしていたのはまじないや、まつりでした。その際使用した道具は「祭祀具」と呼ばれ、土・石・木・金属などさまざまな素材で作られました。

今回は、その中でも木で作られた馬形についてとりあげます。



- | | |
|---------------------|-------------------------|
| ① 大桝遺跡 (鳥取市大桝地内) | ⑤ 常松大谷遺跡 (鳥取市気高町常松地内) |
| ② 高住牛輪谷遺跡 (鳥取市高住地内) | ⑥ 常松菅田遺跡 (鳥取市気高町常松地内) |
| ③ 高住宮ノ谷遺跡 (鳥取市高住地内) | ⑦ 下坂本清合遺跡 (鳥取市気高町下坂本地内) |
| ④ 松原田中遺跡 (鳥取市松原地内) | |

馬形の役割は…?

飛鳥時代（約1,350年前）になると、都では国の平安を願ってまつりが行われるようになり、その後地方へと広がっていきました。

このまつりでは、木製の馬形や人形、齋串（木の板などを串状に加工したもの）、土製の馬、人の顔を描いた人面墨書土器など、さまざまな祭祀具が使われました。これらの多くは、役所や集落のそばを流れる川や溝、池などから出土することから、まつりは主に水辺で行われていたと考えられています。

まつりに使用された祭祀具のうち、動物や人間の形をした祭祀具を「形代」と言い、身代わりに使用したと考えられています。その中でも馬形（写真1・2）は、薄い板に切り込みを入れて、横から見た馬を表したものです。この使い方は、①生きた馬の代わりに水の神様へ捧げた②穢れを祓う役割を持っていたとする2つの説があります。

鳥取西道路の発掘調査では、常松菅田遺跡、常松大谷遺跡などから馬形が出土しています。



写真1 常松菅田遺跡出土の馬形



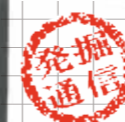
写真2 常松大谷遺跡出土の馬形



(公財) 鳥取県教育文化財団
調査室

〒680-1133
鳥取市源太 12 番地

TEL : 0857-51-7553
FAX : 0857-51-7550
メールアドレス:
tottori-kyobun@kyobun.
sakuratan.com



山陰も梅雨入りして、雨が降る機会も多くなってきました…。しかし、じめじめした天気にも負けず職員一同元気に現場作業を進めています!

【お知らせ】

7月5日 土曜日 午後1時30分から松原田中遺跡の現地説明会を開催します! みなさん是非お越しください(^▽^)

鳥取県教育文化財団 調査室

検索